

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	こども支援事業所つくしくらぶ		職員数	7名	公表日	2026年3月2日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		・レクリエーションの内容や年齢の違う児童たちが1階と2階に分かれて楽しく過ごしています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		・10人の児童に対して、5から6人の職員を配置しております。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		・バリアフリーではありませんが、安全に配慮し、子供達に分かりやすい構造となっています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		・物品の整理整頓を心がけ、定期的な消毒を行っております。また、年齢等に応じて遊び分けできる空間を確保しています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		・他からの刺激が少ない2階の小部屋や裏庭が子供たちが落ち着ける場所になっています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	1	・PDCAサイクルという言葉は使いませんが、計画⇒実行⇒評価⇒改善を職員全員で行っております。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		・保護者より頂いたアンケート内容を職員全員で共有し、保護者の意向に副える様に話し合いや改善を心がけております。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		・毎日始業前にミーティングを行い、職員の意見等を把握し、改善策等を職員で相談しております。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	5	・外部の第三者評価は費用も高く実施しておりませんが、神戸市の巡回指導（児童への支援の仕方）等は実施しました。	・第三者による外部評価は実施していません。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		・適宜社内研修を行い、職員からの要望にも応えた広い知識を学べる場を作り、希望者には外部の研修会参加の機会を提供しています。	・職員からの要望として、「服薬している薬について」「放デイ卒業後の進路について」学びたいとの声があります。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		・R6年10月に作成し、保護者との個別懇談会の時に内容を説明し、支援プログラムを提供しました。また、職員周知も実施しています。	・令和8年度に向けて、支援プログラムの更新を行う予定としております。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		・定期的にモニタリングを児童・保護者に行い、必要に応じて見直しを行っております。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		・複数の職員から意見を求め、職員会議を開いて職員の共通理解の下、放課後等デイサービス計画を作成しております。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		・日々のミーティングで職員に共有し、計画に沿った支援を行っております。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		・活動プログラムについて、一部の職員のみで企画・立案するのではなく、こども達の意見や希望も聞き、企画・立案・実施をしております。なかにはこども発案のプログラムも存在します。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7			

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	2	・支援終了後は時間的に打ち合わせが出来ない事がありますが、日報（連絡ノート）に記入し、全職員で共有しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	7			
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7			
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
関係機関や保護者との連携	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		・学校や病院との連携を図れる様に個別支援計画書やモニタリング記録等を保護者を中心に共有させてもらっています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	1	・保護者を通して情報共有を図っています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	1	・地域の児童発達支援センター（垂水区はのぼら学園）が開催する交流会や研修会に幹部職員が参加し、後日職員へ共有しております。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	2	5	・利用児童の兄弟児が参加できるイベントや、他の健常児と交流できるイベントを企画・実施しております。	・他の放課後等児童クラブや児童館との交流は実現されていません。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	1	・垂水区自立支援協議会子ども部会に加入しており、幹部職員が会議や研修に参加しております。	
34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		・常に子ども達の状況やその日の様子を保護者へ伝え、保護者に寄り添う事を心がけています。		
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7				
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	7		・保護者会・個別懇談会の他、保護者や兄弟児が参加できるイベントを企画・実施し、交流を深める活動をしています。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7				
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7				
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7				
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	2	・地域住民等をお招きするのではなく、地域での活動に参加したり、特技等を持つ地域住民からその特技を披露して頂いたりしています。	・事業所の行事や地域住民を招待する事は行いません。不特定多数の方の場合、こども達への負担も大きく、かつ事業所自体の規模が小さいので不可能だと考えております。	
	非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			
		47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			
		48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7			
		49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		・現在アレルギーのある児童はいません。利用契約日、初回利用日等に必ず確認を行っております。	
		50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
51		こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7				
52		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7				
53		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7				
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7					